

平成二十六年 大学院人文科学府博士後期課程第2期入学試験問題
(日本史学)

次の一～四の設問に答えなさい。但し、解答は全て縦書きとすること。

一 思想史の研究には、さまざまな対象や方法があり得よう。こうした点について、丸山真男と安丸良夫の仕事を具体的に比較し、さらにあなたの考えを交えつつ、自由に論じなさい。

二 次の(1)～(4)について、詳しく説明しなさい。

- (1) 天賦人權論
- (2) 日鮮同祖論
- (3) 全面講和論
- (4) 内国植民地論

三 史料1(別冊)を読み、設問(一)～(三)に答えなさい。なお、印刷の都合で重複している箇所があるので注意すること。

- (一) 全文の釈文をつくりなさい。
- (二) 発信人の姓名を答えなさい。
- (三) 何年に書かれたものか答えなさい。

四 史料2（別冊）を読み、設問（一）～（三）に答えなさい。

（一） 衆議院議員選挙法の成立から史料2に至る時期までの沿革について、知るところを述べなさい。

（二） 史料2から読み取ることでできる内容を、次の①～③に言及しながら、具体的に述べなさい。

① 勅令とは何か。

② 勅令案の作成から施行までの過程。

③ 史料2はどのような史料であるのか。

（三） 「沖縄県ニ衆議院議員選挙法施行ノ件」に関する様子をより詳しく知るにはどのような史料を使えばよいか。それらの史料の閲覧方法を含め、具体的に述べなさい。

史料1（別冊）・史料2（別冊）については、著作権上の理由により、WEB公開版では問題文を削除した。